

# あつぎ郷土博物館年報 4

ANNUAL REPORT OF ATSUGI CITY MUSEUM



2022. May.

# ● 目 次 ●

## I 建 築

1 沿 革 .....	3
2 施設概要 .....	3
3 平面図 .....	4
4 展示テーマ .....	5

## II 学 芸

1 展 示	
(1) 特別展示 .....	7
(2) 企画展示 .....	9
(3) その他展示 .....	10
(4) 展示会関連講座等 .....	12
2 普及啓発活動	
(1) 定期講座 .....	15
(2) 施設見学 .....	16
(3) 出前展示・講座 .....	17
(4) レファレンス業務 .....	18
(5) 学芸員実習・職場体験学 .....	19
3 刊行物 .....	20
4 古民家岸邸 .....	25
5 資料の収集・保管・活用 .....	26

## III 庶 務

1 組織及び職員	
(1) 組 織 .....	29
(2) 博物館協議会 .....	29
2 施 設	
(1) あつぎ郷土博物館 .....	30
(2) 古民家岸邸 .....	31
3 入館者数 .....	32

# I 建 築

## 1 沿 革

あつぎ郷土博物館の建設から開館までの経緯は、おおむね次のとおり。

(仮称)郷土資料館として、平成29年度より本格的な建設準備に着手し、平成31年1月27日に開館。正式名称を「厚木市立あつぎ郷土博物館」と改めた。

平成20年6月 文化財課(当時)が市民公園(下川入)整備構想担当課に決定

平成27年3月1～30日 基本方針(案)に対するパブリックコメント実施

平成28年4月1日 (仮称)あつぎ郷土資料館検討委員会を設置

平成29年3月 (仮称)あつぎ郷土資料館建設実施設計、展示設計を実施、完了

平成29年10月 建築着工

平成30年9月 駐車場等外構工事着手、埋蔵文化財収蔵庫建築工事着工

平成30年10月31日 (仮称)あつぎ郷土博物館竣工

平成30年11月～ 展示工事着手

平成31年1月18日 展示工事完成

平成31年1月27日 あつぎ郷土博物館開館

あつぎ郷土博物館条例が施行される。

## 2 施設概要

所在地 神奈川県厚木市下川入1366番地4

敷地面積 10,025㎡

建築面積 1,590.10㎡

延床面積 1階 1,092.59㎡、2階 497.51㎡

構造 鉄筋コンクリート造 2階建

工期 着工 平成29年10月

完成 平成30年10月

開館 平成31年1月27日

工事関係者一覧

建築設計・管理 株式会社 小林建築事務所

展示設計・管理 株式会社 丹青社

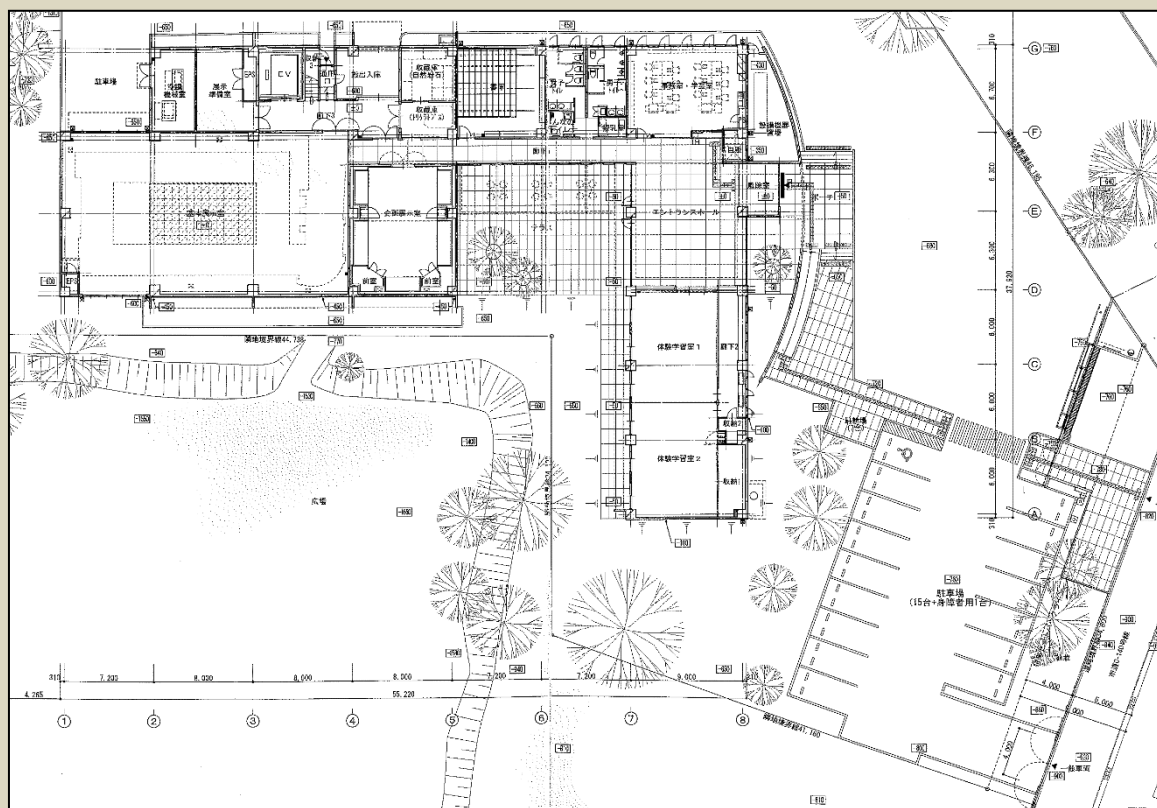
建築工事 山王・安藤特別共同企業体

外構工事 山王・安藤特別共同企業体

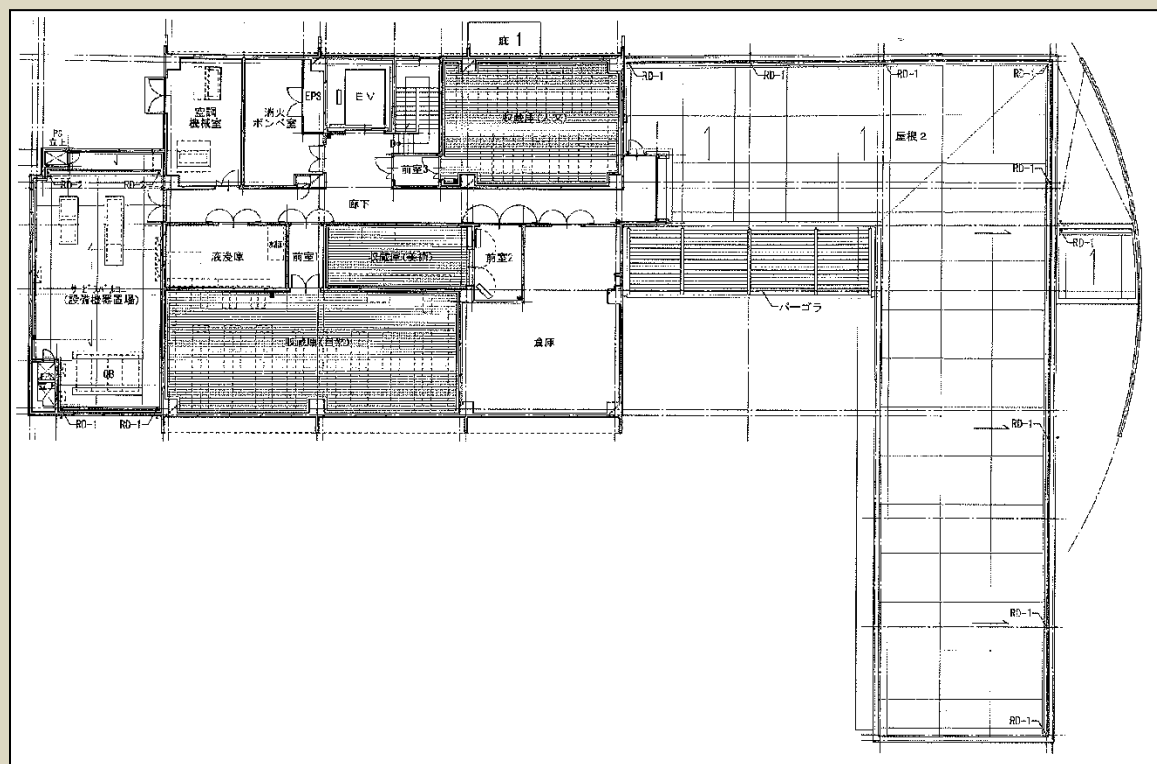
展示工事 株式会社 丹青社

### 3 平面図

• 1F



• 2F



#### 4 展示テーマ

「基本展示」は、地学・考古・歴史・民俗・自然の5つの分野で構成し、各分野でさらに項目、細項目をたて、郷土あつぎを理解できるような展示としている。実物資料を中心とする興味深い資料を展示し、具体的なデータはパネル等で説明している。

また、分野を横断して1つのテーマに取り組む「融合展示」は開館以来、毎年、展示内容を更新しているが、令和3年度のテーマを「水」とした(=写真)。

- ① 展示面積            304.15㎡
- ② 展示資料数        703点(うち融合展示113点)
- ③ 展示テーマ、資料点数内訳

分野	地学	考古	歴史	民俗	自然	合計
基本展示 テーマ	あつぎの風土を望む	あつぎの大地から	あつぎの原風景を訪ねて	あつぎの人、くらしに会う	あつぎの環境と生きものを探る	703
基本展示 資料点数	11	157	203	106	113	590
融合展示 テーマ「水」		・水を貯める ・水に漁る	・相模川と厚木 ・川の普請	・歯をそめる ・酒をはこぶ	・水辺のレッドデータブック ・水たまりは動物を育む	
融合展示 資料点数	0	72	10	13	18	113



博 物 館 事 業  
報 告

## Ⅱ 学 芸

### 1 展示

#### (1) 特別展示

#### 友好都市 あばしりとあつぎの自然

期 間 (前期) (4月29日～9月30日)

\*新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に従いイベント実施を控えたため未開催

(後期) 10月16日～12月5日

開催日数 49日

展示点数 127点

入場者数 特別展示単独のカウントはしていないが、期間中の博物館入館者数は5,012人(1日平均 約102人)

前期展示は、「雄大なオホーツク海と豊かな生物」をテーマに展示を構成した。流氷とともにオホーツク海沿岸に現れるクリオネの生体を小水槽で展示するほか、企画展示室を水族館に見立て「オホーツク写真水族館」として、海中で撮影した魚介類の写真を横幅3mのバナーにデザインして、「冷たい海でも色鮮やか」、「でっかどう・あばしり生命の躍動」、「流氷の海へ誘う」、「一人一人の気づかいが海を救う」の4つのコーナーで展示した。

これらの展示で、厚木市にはない海の生物の豊かさを見学者に感じ取ってもらうことを目的に準備を整えたものの、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に従いイベント実施を控えたため、前期展示は未開催となった。

後期展示は、「網走市と厚木市の動物を比較する」ことをテーマに、企画展示室におけるはく製展示、エントランスホールでの友好都市の紹介展示で構成した。また、網走市から提供を受けた流氷ブロックを毎週土曜日に展示した。

メイン展示は「川の動物もスケールが違う!」、「ベルグマンの法則を実感」、「クマと人の距離感」、「気象と昆虫の分布」、「一人一人の気づかいが海を救う」の5つのコーナーとした。

国内の最北エリアに位置する網走市と、本州の中央に位置する厚木市では、降雪の程度や気温差など、気象がダイナミックに異なることから、動物が分布する地域や体のつくりなどに違いが表れてくる。

たとえば、ほ乳類のクマ類を例にとれば、ヒグマは寒冷地である北海道以北に分布し、ツキノワグマは本州から九州に分布するという種類によって生息地



に違いがみられる。また、寒冷地では、保温のため皮下脂肪が厚く体格が大きくなる傾向があり、同じクマ類であるヒグマとツキノワグマのはく製を比較すると、親と子ほどの体格差があるのはこのためである。また、両市に共通して生息する昆虫のエゾハルゼミは、厚木市では標高1,000mの大山でしかみられないが、網走市では標高20mから見られるなど、垂直分布に違いがみられる。

日本は東西南北に幅広い島国であり、地域による気象特性が著しく異なり、このことが動植物相に大きく影響している。こうした事象を理解する上で、厚木市と友好都市の動物や自然を比較展示することは有益であると、本展示会を開催する中で実感することができた。

見学者の感想では、「コロナ禍で旅行に行けない中、はく製の展示や氷の実物展示を見て雄大な北海道を満喫できた」、「厚木市だけでなく、友好都市などの関連する自治体との協働展示は意義があり、今後も続けてもらいたい」などの感想が聞かれた。一方、北海道の博物館施設から大型動物のはく製資料を借用できなかったことから、「ボリューム感に欠ける」と指摘する意見、会期変更により「クリオネを見学できなかったことが残念」という感想もあった。

なお、デジタル発信として、厚木市HP及び博物館Facebookにおいて展示の様子を掲載し、YouTubeでは「クリオネ」の動画を配信した。



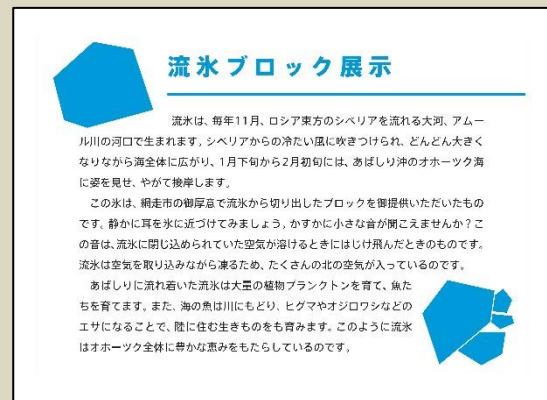
エントランス展示（友好都市ブース）



ヒグマ（左）とツキノワグマの展示



後期ポスター



流氷ブロック展示解説



## (2) 企画展示

あつぎ郷土博物館では令和3年度、以下の企画展示を開催した。

	タイトル	期間/日数	入館者数* (1日平均)
1	再生・永遠帰りの生命 一人はどこから来てどこへ行くのかー	令和3年4月1日(木)～4月11日(日) /11日間*	1,251(113)
2	『新編相模国風土記 稿』が描くあつぎ	令和4年1月15日(土)～3月6日(日) /49日間	3,413(70)
3	地域再発見!1 厚木地域 ～家康・芸妓・ヨシゴイ～	令和4年3月26日(土)～3月31日(木) /5日間*	531(106)

\* 見学者数は展示会期間中の博物館来館者数。

\* 「再生・永遠帰りの生命」展は、令和3年3月22日(月)～4月11日(日)で開催。20日間の入館者数は合計で2,429(121)人。

\* 「地域再発見!1 厚木地域」展は、令和4年3月26日(土)～6月26日(日)で開催。

### ア 再生・永遠帰りの生命一人はどこから来てどこへ行くのかー

【展示構成】 prologue 永遠帰りの生命、(1)異界の入口・出口、(2)異界の意匠、(3)異界への旅立ち（葬送儀礼）、(4)異界からの帰還（盆・彼岸・供養）、(5)異界曼荼羅、epilogue 再生・もう一つの世界

展示会のテーマを「死と再生」とし、霊柩車の屋根飾り、輿、座棺など葬送儀礼にかかわる民俗資料を展示した。コロナ禍に「死」を扱った企画が受け入れられるのか、危惧したが「展示物、解説が充実していた」「写真や資料が分かりやすく展示されていた」との評から、民俗事象に現れた「死と再生」をみるという意図はおおむね理解されたと思われる。また、河童、道祖神の展示による「他界と異界」「お化けと幽霊」などのコラム的な展示も実施したが、「異界」の説明が不十分であったためか、曖昧で分かりづらいとの指摘があり、次回展示に活かしたい。



## イ 『新編相模国風土記稿』が描くあつぎ

【展示構成】(1) 地域を記録する、(2) 風土記稿の人物、(3) 風土記稿とあつぎの暮らし、(4) 風土記稿の文化財、(5) 風土記稿を編む

江戸時代後期に編さんされた『新編相模国風土記稿』に描かれた厚木に関連する資料を紹介した。アンケートでは「歴史を身近に感じることができた」、「相模国の人物や風土が良く理解できた」などの意見が多くあった。展示品の中では、「徳川家康像」「溝呂木家の茶臼」「地誌御調書上」が注目され、意見も多く寄せられた。また、厚木市古文書解説会とホール展示でコラボレートし、SNS上において、厚木市を八つの地域に分け、『新編相模国風土記稿』に掲載された神社や仏閣、史跡などを紹介するなど、新たな試みを行った。



## ウ 地域再発見!1 厚木地域～家康・芸妓・ヨシゴイ～

【展示構成】(考古) 発掘調査からみた厚木宿、(歴史) 徳川家康像と芸妓の線香台、(民俗) 町場の生活具、流通する農具、(自然) ヨシゴイ

あつぎ郷土博物館が所蔵する厚木地域の資料を公開し、「厚木」という地域からどのような情報が発信されてきたのかを、考古、歴史、民俗、自然の各分野から多角的に探り、紹介することで、町場・厚木の特色、魅力を伝えた。

### (3) その他の展示

#### ア ホール展示

特別展「友好都市あばしりとあつぎの自然 後期」において、会期中の土曜日、日曜日及び祝日に網走市提供の流氷を展示した。また、会期

中の、毎週土曜日に（社）厚木市観光協会が出店し、物産及び書籍の販売を行った。来場者からは、「毎週土曜日に開催した網走市やオホーツクの物販は、デパートの催事場とは異なる新しい物産を知ることができた」との感想が聞かれた。

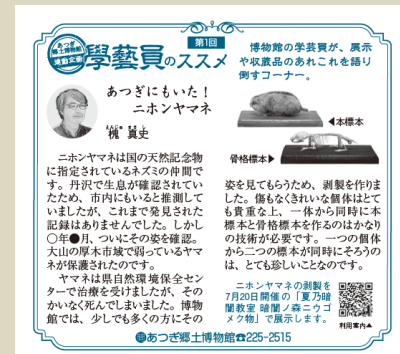


企画展『新編相模国風土記稿』が描くあつぎ展では、会期中に厚木市古文書解読会の活動成果の一部を報告する場として、パネル展示と古文書解読会を紹介する展示を行った(=写真)。

さらに、地域展では民俗部門の展示（流通する農具、町場の民具）、友好都市コラム展示（糸満に流れ着いた軽石）を行った。

イ <sup>がくげいいん</sup>「學藝員のススメ」広報連動展示

「広報あつぎ」15日号に「學藝員のススメ」を連載しているが、紹介した資料を基本展示室又は企画展示室に展示した。令和3年度は、瑞泉寺古文書(4月)からアンソニー型写真機(3月)まで12回の展示を行った。



	掲載号	テーマ (紹介資料)	展示(場所)
1	4月15日	瑞泉寺古文書	常設展示
2	5月15日	ヨコスジカジカ	企画展示
3	6月15日	クリオネ	特別展示
4	7月15日	流氷	特別展示
5	8月15日	クマゼミ	特別展示
6	9月15日	石錘	融合展示
7	10月15日	ツキノワグマ	特別展示
8	11月15日	タンチョウ	特別展示
9	12月15日	貧乏徳利(通い徳利)	融合展示
10	1月15日	徳川家康像	企画展示
11	2月15日	皇和魚譜	企画展示
12	3月15日	アンソニー型写真機	企画展示

(4) 展示会関連講座等

ア 展示会関連講座

特別展・企画展の開催にあたり、見学者の理解を深め、また展示効果を高めるため、展示テーマに関連した講演会・体験学習を企画した。

なお、周知まで行った企画については中止したものも記した。

	開催日	講座名	場所	参加人数
1	5月15日(土)	命の海、オホーツク 講師：関 勝則(知床ダイビング企画代表)	体験 学習室	中止
2	6月12日(土)	流水の海、オホーツク 講師：工藤 英将(オホーツク流水館職員)	体験 学習室	中止
3	7月31日(土)	タンチョウが舞う、オホーツク 講師：秋山 恵美子(濤沸湖水鳥・湿地センター職員)	体験 学習室	中止
4	8月28日(土)	ヒグマが棲む、オホーツク 講師：村上 隆広(斜里町立知床博物館館長・学芸員)	体験 学習室	中止
5	9月11日(土)	あばしりとあつぎのむしくらべ 講師：槐 真史(あつぎ郷土博物館学芸員)	体験 学習室	中止
6	1月23日(日)	相模国霊場研究と『新編相模国風土記稿』原本の存在 講師：城川 隆生(日本山岳修験学会会員)	体験 学習室	中止
7	2月6日(日)	『新編相模国風土記稿』編さんと神奈川県央地域の村々 講師：白井 哲哉(筑波大学・図書館情報メディア系教授)	体験 学習室	中止
8	2月27日(日)	『新編相模国風土記稿』と神奈川県央地域の「旧家」 講師：鈴木 直樹(中央大学広報室大学史資料課)	体験 学習室	中止
9	3月26日(土)	厚木の農機具屋 講師：大野 一郎(あつぎ郷土博物館学芸員)	体験 学習室	16
合計(9回)				16

\*新型コロナウイルス感染対策のため、本市がまん延防止等重点措置の対象区域に指定された期間、特別展や企画展に関連する講座の開催を控えた。

## イ 展示解説

特別展・企画展の開催にあたり、見学者の理解を深め、また展示効果  
を高めるため、各展示担当の学芸員による展示解説を行った。

なお、周知まで行った企画については中止したものも記した。

	実施日	事業名	参加 人数	小計 (人)
特別 展	6月6日(日)	展示解説「友好都市あばしり オホーツクの 自然」 担当：槐 真史(あつぎ郷土博物館学芸員)	中止	34
	6月13日(日)		中止	
	6月19日(土)		中止	
	6月26日(土)		中止	
	7月24日(土)		中止	
	10月24日(日)		34	
企画 展	1月15日(土)	展示解説「『新編相模国風土記稿』が描くあ つぎ」 担当：飯田 好人(あつぎ郷土博物館学芸員)	12	12
	1月30日(日)		中止	
	2月5日(土)		中止	
	2月12日(土)		中止	
	2月19日(土)		中止	
地域 展	3月26日(土)	展示解説「地域再発見!1 厚木地域～家康・ 芸妓・ヨシゴイ～」 担当：山岡 裕子(あつぎ郷土博物館学芸員)	5	5
合計(12回)				51

\*新型コロナウイルス感染対策のため、本市がまん延防止等重点措置の対象区域に  
指定された期間、特別展や企画展の展示解説を控えた。

## ウ その他

	開催日	講座名	場所	参加 人数
そ の 他	3月13日(日)	基本展示及び「『新編相模国風土記稿』が描くあ つぎ」(一部)の展示解説	企画 展示室	9
	3月29日(火)	「地域再発見!1 厚木地域～家康・芸妓・ヨシゴ イ～」の展示解説		13
合計(2回)				22

エ あつぎ郷土博物館開館3周年記念講座

あつぎ郷土博物館が開館し、3年目を迎えたことからあつぎに関連する事柄について講座を計画した。

同企画は事業の周知まで行ったため、中止となったが記した。

	開催日	講座名	場所	参加人数
渡辺 崋山 講座	1月29日(土)	渡辺崋山ベスト10ー饒舌館長口演すー 講師：河野 元昭（静嘉堂文庫美術館館長）	体験 学習室	中止
戦国 時代の あつぎ	2月26日(土)	今川氏とあつぎ 講師：久保田 昌希（元駒澤大学副学長）	体験 学習室	中止
	3月5日(土)	戦国北条家の魅力 講師：黒田 基樹（駿河台大学教授）	体験 学習室	中止
	3月6日(日)	武田信玄の小田原攻撃と三増合戦 講師：平山 優（山梨県教育委員会）	体験 学習室	中止
合計（4回）				0

\*新型コロナウイルス感染対策のため、本市がまん延防止等重点措置の対象区域に指定された期間の講座・講演会の開催を中止した。



## 2 普及啓発活動

あつぎ郷土博物館では、調査・研究の成果を活かした普及講座を行なっている。令和3年度は、土日を中心に普及活動を展開し、基本展示において各担当学芸員が専門分野を活かした展示解説、講座・講演会を多数企画した。

なお、周知まで行った企画については中止したものも記した。

### (1) 定期講座等

#### ア 展示解説

	開催日	講座名	場所	参加人数
その他	4月3日(土)	融合展示解説 担当：飯田 好人(あつぎ郷土博物館学芸員)	基本展示室	2
	4月24日(土)	融合展示解説 担当：飯田 好人(あつぎ郷土博物館学芸員)	基本展示室	2
合計(2回)				4

#### イ 博物館講座

	事業名	実施日	講座名	場所	参加人数
1	土曜自然教室	4月10日(土)	トカゲ・カナヘビ・カエル探索 講師：佐藤 誠三(元宮ヶ瀬ビクターセンター長)	体験学習室	27
		小計			27
2	古文書講座	2月10日(木)	はじめての古文書 講師：飯田 好人(あつぎ郷土博物館学芸員)	体験学習室	中止
		2月17日(木)			中止
		2月24日(木)			中止
		3月10日(木)			中止
		3月17日(木)			中止
		3月24日(木)			中止
		小計			0
合計(1回)					27

\*新型コロナウイルス感染対策のため、本市がまん延防止等重点措置の対象区域に指定された期間の講座の開催を控えた。

## ウ 共催講座

郷土資料館の頃から、資料整理、調査、普及活動で協働してきた団体との活動を、あつぎ郷土博物館への移転後も継続、実施している。令和3年度は新型コロナウイルスまん延防止のため、活動を休止した団体もあった。

団体（活動日）	回数	参加人数
古文書解読会(第2、3木曜日。第4木曜日は学習会)	3	28
伝えよう わらべうたあそびの会 (第3月曜日。第1月曜日はアミューあつぎで開催)	休止	0
女性史研究会 さねさし(第3水曜日)	休止	0
合計(3回)		28

## (2) 施設見学

平成13年度から、郷土資料館が収蔵する郷土資料について市民への公開を進めるため、小中学校、公民館、保育所などで出前展示、講座を実施してきたが、あつぎ郷土博物館への移転後も継続、実施している。

市内の小学生を対象とした施設見学では、教科に合わせて「昔の暮らし」「水はどこから」「博物館見学のマナー」などを、また、高校生には特別展示の内容を説明した。

### ア 小学校 7校

来館日	学校名	参加人数
7月5日(月)	玉川小学校4年生	29
11月2日(火)	鳶尾小学校3年生	56
11月12日(金)	北小学校学1年生	70
11月26日(金)	厚木第2小学校3年生	111
12月10日(金)	戸室小学校3年生	94
1月20日(木)	北小学校3年生	60
3月2日(水)	依知小学校3年生	72
合計(7校) *北小学校は複数学年が見学。		492

### イ 高等学校 1校

来館日	学校名	参加人数
11月16日(火)	県立厚木北高等学校 科学部	12
合計(1校)		12

(3) 出前展示・講座

平成13年度から、郷土資料館が収蔵する郷土資料について市民への公開を進めるため、小中学校、公民館、保育所などで出前展示、講座を実施してきたが、あつぎ郷土博物館への移転後も継続、実施している。

	開催日	学校(対象、内容)	参加人数
出前講座・ 展示 (小学校)	1月17日(月)	清水小学校(3年生 むかしの道具)	152
	1月19日(水)	三田小学校(3年生 むかしの道具)	120
	1月26日(水)	厚木小学校(3年生 むかしの道具)	148
	1月27日(木)	荻野小学校(3年生 むかしの道具)	31
	2月2日(水)	愛甲小学校(3年生 むかしの道具)	69
	2月3日(木)	上依知小学校(3年生 むかしの道具)	44
	2月8日(火)	戸田小学校(3年生 むかしの道具)	50
	2月10日(木)	南毛利小学校(3年生 むかしの道具)	183
	2月25日(金)	相川小学校(3年生 外来生物と在来生物)	40
	3月8日(月)	妻田小学校(3年生 むかしの道具)	70
合計(10校)			907

	開催日	内容(場所)	参加人数
講師派遣 (公民館他)	6月5日(土)	地域子ども教室推進事業(森の里公民館)	30
	10月27日(水)	厚木市レッドデータブック完成記念講演会 (環境政策課主催。WEB配信)	354
	11月13日(土)	「寺子屋講座 厚木の文化財巡り」(教育研究所)	13
	11月15日(月)	生きがい教室(森の里公民館)	40
	3月15日(火) から配信	小鮎の史跡巡り(小鮎公民館。WEB配信)	400
合計(5件)			837

(4) レファレンス業務

地域資料に関する市民の疑問、質問の相談に対し、あつぎ郷土博物館が調査・収集・研究している情報に基づいて回答している。令和3年度の業務件数は以下のとおり。

ア 一般回答 総数197件(うち人文系105、自然系90、その他2)

分野	質問者	相談内容	内容、対応
人文	一般	博物館の資料について	主に民具を中心に寄贈の問い合わせが数件あった。また、所蔵する資料の使用法、借用についても数件の問い合わせがあった。
	一般	市内の地名・史跡・石造物について	市内の地名の由来や、史跡、石造物についての問い合わせがあった。
	一般	厚木に関係する人物について	渡辺崋山や毛利氏、渋谷竹径、愛甲三郎季隆などを紹介した。
	一般	『新編相模国風土記稿』について	『新編相模国風土記稿』に掲載された村や旧家、文物についての問い合わせがあった。
自然	一般	クリオネの展示について	クリオネの展示について、場所や期間などの問い合わせが多数あった。→まん延防止等重点措置の期間中であつたため展示できなかった。
	庁内	ヒアリ・ゴケグモ等について	鑑定依頼
その他	一般	博物館の評価方法などについて	社会教育施設としての博物館の評価法について問い合わせがあった。
	庁内	入館者数について	博物館開館以来の入館者数の推移についての問い合わせがあった。

イ メディア対応 総数9件(新聞4、テレビ2、ラジオ3)

種類	掲載、放映日	取材内容
放送	4月24日(土)	エフエムさがみ「それいけ：月光団本部」 七沢城について(あつぎ郷土博物館についても放送)
掲載	7月24日(土)	神奈川新聞社「神奈川の妖怪、お化け特集」 荻野の絵師・井上五川「白澤図」と妖怪「件」について
掲載	1月15日(土)	神奈川新聞社「『新編相模国風土記稿』が描くあつぎ」展の内容、徳川家康像と厚木の関係について
放送	1月24日(月)	エフエムさがみ「それいけ：月光団本部」 「『新編相模国風土記稿』が描くあつぎ」展の内容
放送	2月7日(月)	厚木伊勢原ケーブルネットワーク「まりえさん！しずよ社長がお出かけですよ！」 あつぎ郷土博物館の展示紹介

放送	3月26日(土)	エフエムさがみ「それいけ：月光団本部」 「湯山事件」について
掲載	3月29日(火)	神奈川新聞社「地域再発見！1 厚木地域～家康・芸妓・ヨシゴイ～」の内容、和田傳(でん、つとう)の読み方等について

#### (5) 学芸員実習、職場体験学習等

##### ア 学芸員実習

新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる留意事項を示した文化庁からの通知を思慮し、大学生の学芸員実習を控えた。

##### イ 職場体験学習等

中学校の総合学習の一環として実施されている職場体験学習だが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施はなし。

また、社会体験研修(中堅教員研修)として市内小学校教員を受け入れた。

#### (6) 視察対応

新規開館の博物館施設として、地方公共団体などから地域資料の保存、公開、社会教育施設としての活用など、さまざまな観点からの視察に対応した。令和3年度の対応は以下のとおり。

来館日	視察団体	視察内容
7月13日(火)	秦野市教育委員会 文化財保護係	設置経緯、入館者数の状況、執行体制、博物館施設概要(収蔵庫)、関連経費など
11月17日(水)	座間市教育委員会 教育部生涯学習課 市史文化財担当	準備体制、施設、人事・人材、文化財管理、運用・維持管理経費、企画・イベント
11月30日(火)	茅ヶ崎市教育委員会 教育推進部社会教育課 博物館担当	開館スケジュール、開館時の問題点、開館後の問題点、文化財管理

### 3 刊行物

あつぎ郷土博物館では、展示の内容をより深く理解する手立てとして基本展示図録、特別展示図録などを刊行している。

従来、事業周知を目的とし、月1度の発行としてきた『郷土資料館NEWS』は、『あつぎ郷土博物館NEWS』と改称し、刊行を続けている。

また、事業報告を行ってきた『郷土資料館年報』についても、『あつぎ郷土博物館年報』として同様にネット上で公開している。

#### (1) 展示会図録等

[あつぎ郷土博物館 基本展示図録]			
『あつぎ郷土博物館 基本展示図録』	2019.01	A4版	1,000部
『あつぎ郷土博物館 基本展示図録』	2019.06	A4版	1,000部(初版2刷)
[あつぎ郷土博物館 特別展示図録]			
『開館記念特別展 みる、しる、たのしむ 浮世絵の世界—歌麿・北斎・広重—』	2019.01	A4版	1,000部
『あつぎの花咲く植物の世界—神奈川県植物誌2018の成果をひもとく—』	2020.01	A4版	1,000部
『優しい旅びと・渡辺崋山—「厚木六勝」と「游相日記」—』	2020.09	A4版	1,000部
[あつぎ郷土博物館 郷土学習の副読本]			
『あつぎの友好都市 あばしりの自然』	2022.03	A5版	2,000部

#### (2) 博物館NEWS等

[あつぎ郷土博物館 NEWS号外]			
『あつぎ郷土博物館 NEWS号外』(1~3月号)	2019.4~6	A4版	1,150部
[あつぎ郷土博物館 NEWS]			
『あつぎ郷土博物館 NEWS』(1~12月号)	2020.4~2021.3	A4版	1,350部
『あつぎ郷土博物館 NEWS』(1~12月号)	2021.4~2022.3	A4版	1,350部
[(仮称)あつぎ郷土博物館 準備NEWS]			
『(仮称)あつぎ郷土博物館 準備NEWS』(1~9号)	2018.4~12	A4版	1,350部

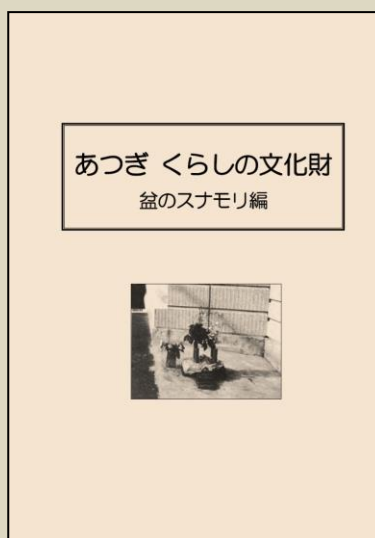
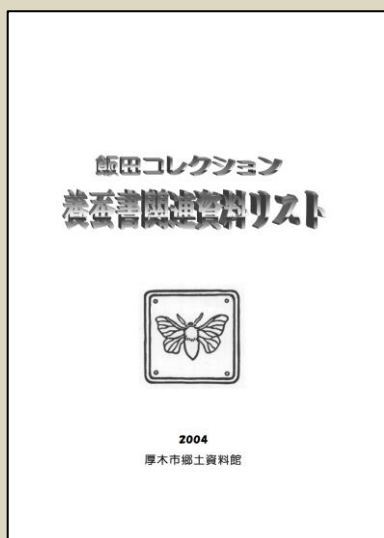


【参考】厚木市郷土資料館 刊行物

<b>[郷土資料館 常設展示図録]</b>			
『常設展示図録 あつぎ百科』	1998. 11	B 5 版	1, 500部
<b>[郷土資料館 特別展示図録]</b>			
『第1回 おおやまの生きもの』	1998. 11	A 5 版	1, 500部
『第2回 出開帳』	1999. 11	B 5 版	1, 500部
『第3回 化 石』	2000. 7	A 4 変形	1, 500部
『第4回 東海道と矢倉沢往還』	2001. 9	A 4 版	1, 000部
『第5回 あつぎ地域の草木☆花めぐり』	2002. 12	A 5 版	1, 000部
『第6回 農具から農機具へ～流通民具が語るもの～』	2003. 11	A 4 版	1, 000部
『第7回 養蚕書と出版文化～養蚕文化はどう伝わったのか～』	2004. 11	A 4 版	1, 000部
『第8回 相模川の生きものに親しむ』	2005. 11	A 5 版	1, 000部
『第9回 商家と看板』	2007. 2	A 4 版	1, 000部
『第11回 本厚木駅と厚木駅～小田急、相鉄、相模線とあつぎ～』	2008. 11	A 4 版	1, 000部
『第12回 あつぎのむし』	2009. 11	A 5 版	1, 000部
『第13回 ー引札、チラシ、マッチラベル、錦絵、看板ー 広告メディアが語る「商い」と地域の変遷』	2010. 11	A 4 版	1, 000部
『第14回 あつぎ あきのむし』	2011. 10	A 5 版	1, 000部
『第15回 あつぎ 縁起書の世界ー神さま仏さまのプロフィールー』	2012. 11	A 4 版	1, 000部
『第16回 あつぎの野鳥』	2013. 11	A 5 版	500部
『第17回 化粧』	2014. 11	A 4 版	500部
『第18回 あつぎの草木*花めぐり』	2015. 11	A 5 版	500部
『第19回 あつぎと酒』	2016. 11	A 4 版	500部
※第6回のみ無償、他は有償頒布。第10回は開館10年記念展。			
<b>[郷土資料館開館10年記念特別展図録] (無償頒布)</b>			
『郷土資料館開館10年記念特別展 あつぎ文化財まつり』	2007. 11	A 4 版	2, 000部

**[厚木市郷土資料館資料]**

『飯田コレクション 養蚕書関連資料リスト』	民俗資料調査報告	2005. 3. 31	A 4 版	150部
『飯田コレクション 養蚕書関連資料リスト』	民俗資料調査報告	2006. 3. 31	A 4 版	150部
『飯田コレクション 地域関連資料リスト1』	民俗資料調査報告	2006. 3. 31	A 4 版	200部
『あつぎ 暮らしの文化財 盆のスナモリ編』	民俗資料調査報告	2006. 11. 30	A 4 版	50部



▲第7回 養蚕書と出版文化の借用資料の調査報告書（2006年3月刊行）

▲会員の調査を一冊の報告書にまとめ、刊行（2006年11月刊）

**[郷土資料館 収蔵資料展示図録]**

『第1回 厚木の画家 島村亮』	1998. 12	A 4 版	500部
『第7回 町場の暮らしと民具』	2000. 2	A 4 版	500部
『第9回 職人の道具』	2000. 6	A 4 版	500部
『第11回 鎧と刀』	2000. 12	A 4 版	500部
『第12回 あつぎの野鳥』	2001. 2	A 4 版	500部
『第13回 活動する青年たち』	2001. 6	A 4 版	500部
『第16回 あつぎの民俗芸能』	2001. 12	A 4 版	500部
『第18回 村の古文書—馬場文書— 』	2002. 5	A 4 版	500部
『第19回 あつぎの修験者』	2002. 8	A 4 版	500部
『第20回 厚木の文学者 和田傳』	2003. 2	A 4 版	500部

[郷土資料館 NEWS]

『郷土資料館 NEWS』	(1号)	1999.3	A4版	500部
『郷土資料館 NEWS』	(2号～13号)	1999.4～2000.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(14号～25号)	2000.4～2001.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(26号～37号)	2001.4～2002.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(38号～49号)	2002.4～2003.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(50号～61号)	2003.4～2004.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(62号～73号)	2004.4～2005.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(74号～85号)	2005.4～2006.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(86号～97号)	2006.4～2007.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(98号～109号)	2007.4～2008.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(110号～121号)	2008.4～2009.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(122号～133号)	2009.4～2010.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(134号～145号)	2010.4～2011.3	A4版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(146号～157号)	2011.4～2012.3	A4版	各600部
『郷土資料館 NEWS』	(158号～169号)	2012.4～2013.3	A4版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(170号～181号)	2013.4～2014.3	A4版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(182号～193号)	2014.4～2015.3	A4版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(194号～205号)	2015.4～2016.3	A4版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(206号～217号)	2016.4～2017.3	A4版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(218号～229号)	2017.4～2018.3	A4版	各660部

なお、郷土資料館開館以前、市立博物館展示準備のための基礎調査報告書については、『厚木市博物館資料』という体裁で、以下のように刊行し、資料目録（購入、収集、寄贈）も同じシリーズにて発刊してきた。資料館開館後の資料の調査、整理等に関する報告等については、『郷土資料館資料』というタイトルで資料館閉館まで刊行を続けた。

**[厚木市博物館資料]**

『厚木市荻野の動物Ⅰ』	1995.3
『厚木市荻野の植物Ⅰ』	1995.3
『谷戸田のムラ』	1995.3
『鐘ヶ嶽東方の七沢石』	1995.3
『最勝寺墓石調査報告書』	1996.3
『厚木市荻野の植物Ⅱ』	1996.3
『金光山最勝寺墓石調査報告書』	1995.3
『収蔵資料目録 1 寄贈・購入昆虫標本目録 (1)』	1997.3
『収蔵資料目録 2 寄贈・寄託維管束植物目録 (1)』	1997.3
『厚木市相模川の動植物』	1998.3
『長福寺墓石調査報告書』	1997.3
『収蔵資料目録 3 脇一郎寄贈蝶類コレクション目録』	2005.3

**[博物館収蔵資料展図録]**

『第1回 博物館収蔵資料展 坂東彦三郎と厚木』	1994.2
『第2回 博物館収蔵資料展 世界のチョウ・厚木のチョウ』	1994.11
『第3回 博物館収蔵資料展 幕末－相州厚木－』	1995.2
『第4回 博物館収蔵資料展 ー夏の風物誌ー花火』	1995.7
『第5回 博物館収蔵資料展 厚木の植物－植物に魅せられた人々ー』	1996.2
『第6回 博物館収蔵資料展 広重の富士三十六景－厚木と富士信仰ー』	1996.7
『第7回 博物館収蔵資料展 厚木の里山をあるく』	1997.3
『第8回 博物館収蔵資料展 旅－村、往還そして街道ー』	1997.12

#### 4 古民家岸邸

厚木市指定有形文化財である旧岸家住宅を展示場として、市民から寄贈された五月人形、雛人形の展示を計画していたが、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の対象区域に本市が指定されたことを受けて休館としたため、期間の短縮及び開催を一部中止した。

##### (1) 展示

	タイトル	期間	入場者数
1	古民家岸邸の端午の節句*	4月21日(水)～4月27日(火)	51
2	相模里神楽展「未来へつなぐ相模里神楽」		
3	あつぎ古民家岸邸の七夕	6月23日(水)～7月11日(日)	75
4	古民家岸邸の雛まつり	2月16日(水)～3月6日(日)	547
合計(3回)			673

\*まん延防止等重点措置の対象区域に本市が指定されたことから、4月27日で事業を終了とした(本来の会期は4月21日～5月9日)。

##### (2) 解説

	開催日	団体	参加人数
岸邸の建築	12月19日(日)	相模原市立博物館民俗調査会	25
岸邸の建築	3月3日(木)	八木橋トラベル	13
合計(2回)			38

## 5 資料の収集・保管・活用（令和4年3月31日現在）

### （1）資料の収集状況

あつぎ郷土博物館は、前身である郷土資料館の頃から、郷土 厚木の歴史、民俗、自然に関する資料を購入、寄贈、寄託、採集などの方法で収集を行ってきた。令和4年3月31日現在、資料調査、整理を進め、資料件数を点数に改めるなどの精査を行った結果、新たに寄贈を受入れた資料612点を加え、合計点数は 184,448点 となった。

収集した資料は、各種展示会等において展示公開を進めている。

#### ア 入手方法別 資料の収集状況（累計）

	購入資料	寄贈資料	寄託資料	採集資料	その他	合計(点)
人 文	4,733	19,698	6,823	0	285	31,539
自 然	1,511	24,958	1,436	124,956	48	152,909
合 計	6,244	44,656	8,259	124,956	333	<b>184,448</b>

#### イ 寄贈資料の受け入れ状況（18件、612点。寄贈者敬称略）

受入年月日	資 料 名	寄贈者名（敬称略）	氏名公開	数量
2021年4月30日	槍（穂部分、刃渡り12.8cm）	厚木市毛利台 樺澤 秀明	○	1
2021年5月5日	通い徳利（近江屋）、下駄職人道具一括、銭函、薬研	厚木市酒井 露木 澄男	○	4
2021年5月27日	難波愛子家所蔵文書目録のとおり一括*	厚木市中荻野 難波 秀夫	○	533
2021年6月2日	青年団、丹沢報国寮資料（山本良治氏旧蔵）、宮ヶ瀬ダム関連他地方自治資料（山本良治氏旧蔵）一括 *リストの通り	厚木市宮の里 落合 清春	○	2
2021年7月5日	地図（明治26年 陸軍迅速則図、昭和57年国土地理院 1/25,000 地図）	厚木市中町 スルガ銀行 厚木支店	○	2
2021年7月21日	通い徳利（厚木町 宮島酒店、上古沢 吉岡酒店、厚木町 川野屋。一升瓶タイプ、厚木町 川野屋、愛甲郡小野 醸造元。酒樽タイプ）	伊勢原市田中 伊勢原市教育委員会	○	6
2021年9月24日	共有機械 連名并損料帳（大正7年2月吉日求）、「艶容女舞衣 酒屋の段」（明治45年妻田村島村）、「玉藻前 道春館段」（妻田村市場加藤興市君持明治31年9月新調）	厚木市妻田西 島村 義雄	○	3
2021年9月25日	オカギ（自在鉤）、藁靴、蓑（富山で使用）	厚木市飯山 坪口 正義	○	3
2021年10月2日	盆（合併記念 荻野村 昭和31年9月30日）、徳利（海軍満期記念）、盃（支那事変記念）、盆（日章旗入）、膳拾人前 文久5年3月吉日 東邑三橋菊五郎、才榎（柄付）	厚木市戸室 石川 光男	○	7
2021年12月1日	最新土地名鑑 地番地目畝歩表付（南毛利地区、昭和40年度版）、燐寸ラベル（全国版）	厚木市船子 関 庄治	○	2
2021年12月1日	古文書一括（別リスト）、綿繰り機	厚木市戸田 大貫 友一	○	2
2021年12月13日	厚木かるた（著作・監修：あつぎものしり委員会）	厚木市中町 山口 まさみ	○	1
2021年12月22日	川島武、光太郎資料（別リスト）	厚木市妻田 川島 浩平	○	2
2021年12月28日	刀剣関連書籍（別リスト）	厚木市妻田西 山崎 博正	○	34
2022年1月11日	『戦友』（昭和戦史研究会、昭和55年）	厚木市三田 古郡 猛	○	1
2022年1月15日	井戸車	厚木市温水 神崎 隆	○	1
2022年1月15日	背負子（秦野市で使用）	厚木市七沢 中川 重年	○	2
2022年2月9日	稲荷講諸掛帳（安政6歳巳羊2月初午）、稲荷講掛軸（三州豊川 屹祝尼天、明治31年3月10日新調 他	厚木市下川入 渋谷 嘉平	○	6
				612



## (2) 収集資料の保管状況

あつぎ郷土博物館収蔵資料の多くは、博物館内の4室の収蔵庫に収蔵、保管されている。

その他にも、昭和40年代から収集を進めてきた民具などの民俗資料は、博物館敷地内の郷土資料収蔵庫(=写真)、三田公共用地内のコンテナ3基に収蔵している。



あつぎ郷土博物館内に設置された収蔵庫は、常時空調機を使用し、文化庁が推奨する湿度55%±5%、室温は摂氏20度±5度の温湿度を保つように設定している。

美術、人文、自然、液浸、それぞれの資料の内容により標本箱や文書箱を使用する等、専用の保存収蔵庫に収納、保存している。全館燻蒸は令和元年度に行ったが、今後は環境調査の結果によって行うものとしている。企画展示室は年1回、大型借用資料の搬入時等に合わせて燻蒸を行っている。

### ア 収蔵施設別 資料の保管状況

	あつぎ郷土博物館 収蔵庫	郷土資料収蔵庫	三田コンテナ	合計(点)
人文	12,842	17,483	1,214	31,539
自然	152,909	0	0	152,909
合計	165,751	17,483	1,214	184,448

### イ 収蔵施設面積

	あつぎ郷土博物館 収蔵庫	郷土資料収蔵庫	三田コンテナ	合計(m <sup>2</sup> )
面積	497	348	108	953

(3) 資料の館外貸出等

ア 館外貸出 3件

申請日	期 間	資 料 名	貸 出 先	数 量
7月19日	8月2日～ 8月13日	戦争関連資料	福祉総務課	15
10月17日	10月18日～ 10月28日	千歯扱(2)、唐箕(1)、足踏 み脱穀機(1)	七沢希望の丘初等学校	4
11月8日	11月8日～ 11月19日	千歯扱(1)、唐箕(1)	厚木市立荻野小学校	2

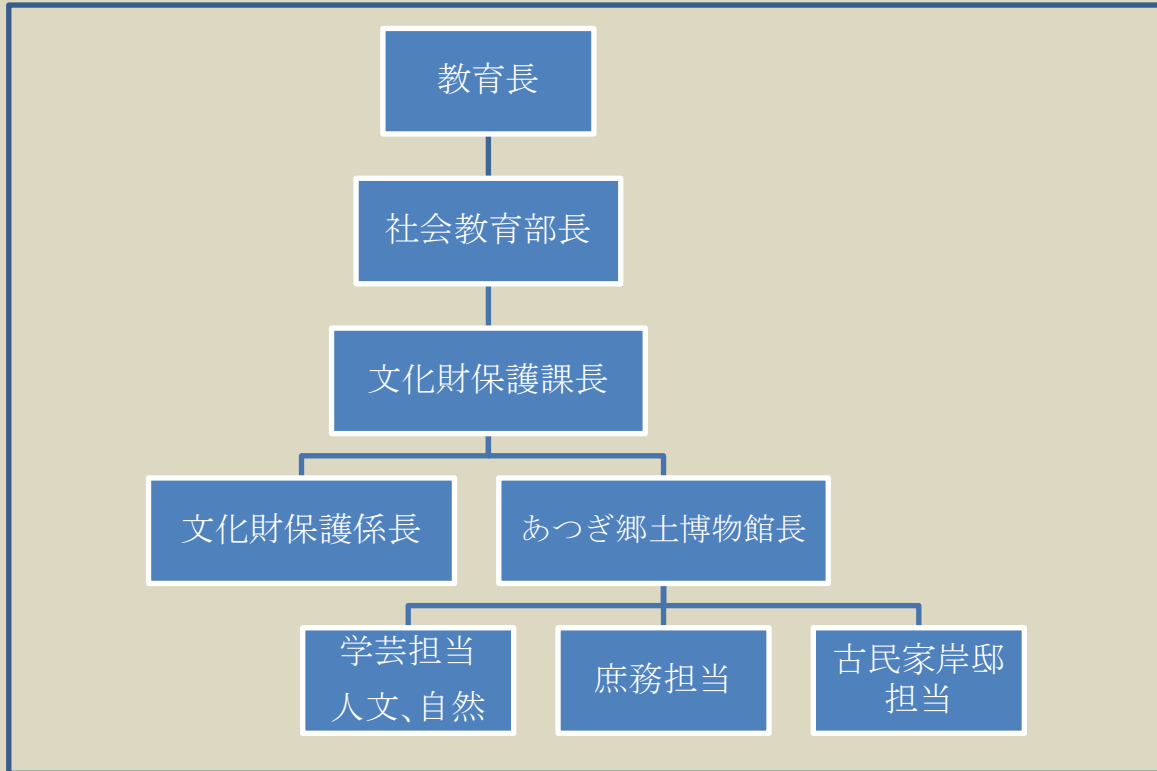
イ 特別利用 10件

申請日	資 料 名	利 用 者	形 態
4月1日	「相模国大山寺石尊宮朝山図」 (歌川国芳)	日本テレビ放送網株式 会社	掲 載
4月1日	「千歳屋松五郎商店チラシ添付 の柳行李」	個人	撮 影 掲 載
4月13日	「鎌倉(鶴岡八幡宮大塔)」 (F.ベアト撮影)画像データ	筑摩書房	掲 載
5月20日	「厚木宿」(F.ベアト撮影)画像 データ	相模考古学研究所	掲 載
8月22日	「江戸図屏風」	広島県立歴史博物館 学芸課	掲 載
9月17日	「大矢正夫自徐伝」 石阪昌孝より受け取った刀袋	町田市立自由民権 資料館	掲 載 撮 影 借 用
10月11日	「原町田」(F.ベアト撮影)画 像データ	個人	放 送
11月9日	「浸種について描かれた3人の 人物と詩の耕織図」	韓国精神文化研究院	掲 載
1月18日	「箱根宿」(F.ベアト撮影)画像デ ータ	神奈川県県土整備局道 路部 道路企画課	掲 載
1月19日	「トリケラトプス頭骨」	株式会社 学研プラス	撮 影

## Ⅲ 庶 務

### 1 組織及び職員

#### (1) 組織（令和4年3月31日現在）



#### (2) 博物館協議会

##### ア 委員構成（令和4年3月31日現在）

氏 名	所属（分野）	氏 名	所属（分野）
鈴木 良明	会 長 鎌倉国宝館館長（歴史）	小松 秀雄	元ポーラ文化研究所長（歴史）
鈴木 通大	実践女子大・成城大学非常勤講師（民俗）	渋谷 嘉平	元青年の家跡地活用研究会会長
明戸 葉子	厚木市上戸田児童館指導員	田村 勝利	元麻布大学附属高等学校教諭
飯田 節子	女性史研究会「さねさし」前会長	馬場 弘臣	東海大学教育開発研究センター教授（歴史）
市川 理恵	東京大学史料編纂所学術支援職員（歴史）	吉田 文雄	公募による選考

イ 会議の開催

日 時	内 容
7 月	令和 2 年度あつぎ郷土博物館事業報告、令和 3 年度あつぎ郷土博物館事業計画等について、新型コロナウイルス感染防止のため書面会議
3 月	令和 3 年度あつぎ郷土博物館事業報告等について、新型コロナウイルス感染防止のため書面会議

2 施 設

(1) あつぎ郷土博物館

ア 建設概要

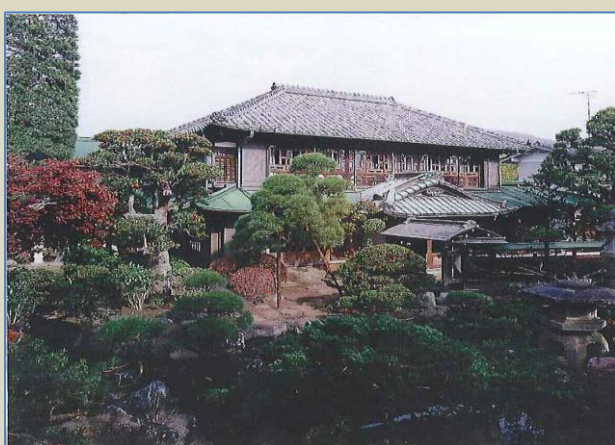
位 置	神奈川県厚木市下川入1366番地 4
敷地面積	10,025㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 地上 2 階建
建物床面積	1,590.10㎡ ・延床面積 1 階 1,092.59㎡、2 階 497.51㎡
開館年月日	平成 31 年 1 月 27 日

イ 展示等面積

基本展示室(1階)	304.15㎡
企画展示室(1階)	85.51㎡
体験学習室(1階)	130.70㎡ (体験学習室 1、2)
専門書庫(1階)	52.70㎡
収蔵庫(1階)	32.29㎡ (化石岩石展示・収蔵室)
展示準備(1階)	90.38㎡ (荷解き場、展示準備室等)
事務・学芸室(1階)	68.22㎡
収蔵庫(2階)	312.25㎡ (人文、美術、自然、液浸)
施設管理室(1、2階)	245.24㎡ (消火ポンベ室、機械室、エレベーター等)
共用部他(1、2階)	268.66㎡ (エントランスホール、トイレ・授乳室他)

(2) 古民家岸邸

位 置	神奈川県厚木市上荻野792番地 2
敷地面積	1,746.25㎡
建物床面積	520.13㎡ (主屋 1階 272.25㎡ 2階 140.24㎡ 土蔵 1 1階 33.12㎡ 2階 33.12㎡ 土蔵 2 1階 20.70㎡ 2階 20.70㎡)
建設年月日	明治24年 (1891年)
建物の特徴	<p>岸邸の主屋は、木造2階建て、寄棟造瓦葺。間取りは、一階が土間をもつ六間取りを基本にいくつかの部屋を追加している。二階は、12.5畳の部屋から横一列に3室ならば、その他10畳弱の洋間が造られている。部屋は全部で15室あり、敷地面積は約520坪。</p> <p>この建物の特徴として次の3点があげられる。</p> <p>① 使用されている木材の質が極めて高く、仕上も入念である。</p> <p>② 各部の意匠は通り一遍でなく、十分な手間がかけられ、随所に凝った意匠を展開している。</p> <p>③ 近世以来の伝統的な農家の間取りである六間取を基本にしながら、本格的な二階座敷を持ち、しかもこの時期には珍しかったであろう瓦葺とするなど、時代の転換期の先端的な様式を併せ持っている。</p>



### 3 入館者数

#### (1) 令和3年度 あつぎ郷土博物館 月別入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者	2,306	2,201	1,220	1,429	241		2,015	3,299	1,162	1,849	1,676	1,830
開館日	27	30	29	30	6		28	29	20	27	27	29
平均	85	73	42	48	40		72	114	58	68	62	63
累計	2,306	4,507	5,727	7,156	7,397	7,397	9,412	12,711	13,873	15,722	17,398	19,228

\*新型コロナウイルス感染対策のため8月7日から9月30日まで休館。

#### (2) あつぎ郷土博物館 年度別入館者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
入館者	11,664	36,586	19,549	19,228	87,027
開館日	63	320	226	282	891
平均	185	114	87	68	98

\*平成30年度は、博物館建設準備のため4月1日から1月25日まで郷土資料館(寿町)を休館し、1月27日からあつぎ郷土博物館(下川入)として開館した。入館者数は1月27日から3月31日までの人数。

\*令和元年度は、新型コロナウイルス感染対策のため3月4日から3月31日まで休館。

\*令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策のため4月1日から5月26日まで休館。1月12日から3月21日まで休館。

\*令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策のため8月7日から9月30日まで休館。

#### (3) 令和3年度 古民家岸邸 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者	177	211	116	72	17		91	94	125	66	336	315
開館日	22	22	21	23	4		23	20	18	20	20	22
平均	8	10	6	3	4		4	5	7	3	17	14
累計	177	388	504	576	593	593	684	778	903	969	1,305	1,620

\*新型コロナウイルス感染対策のため、令和3年8月7日から9月30日まで休館。



【参考】郷土資料館(あつぎ郷土博物館の前身) 利用者数の推移

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
入館者	4,233	8,685	11,887	12,701	9,424	5,268	8,089	8,076	7,212	12,264	15,001
開館日	144	331	328	329	340	340	340	340	349	353	349
平均	29	26	36	39	28	15	24	24	21	35	43

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計
入館者	13,042	12,310	12,895	14,176	13,109	14,289	11,741	8,760	6,338	209,500
開館日	349	351	350	350	350	350	350	359	359	6,711
平均	37	35	37	41	37	41	34	24	18	31

\*平成10年度は、11月3日から翌3月31日までの人数。

\*平成15年度は、6月15日から9月13日まで耐震工事のため2階展示室を閉鎖。

\*平成29年度は、10月1日から、移転準備に伴い2階全フロアを閉鎖。

## あつぎ郷土博物館年報 4

発行日	令和4年5月31日
編集	あつぎ郷土博物館 〒243-0206 厚木市下川入1366番地4 TEL 046-225-2515
発行	厚木市教育委員会